

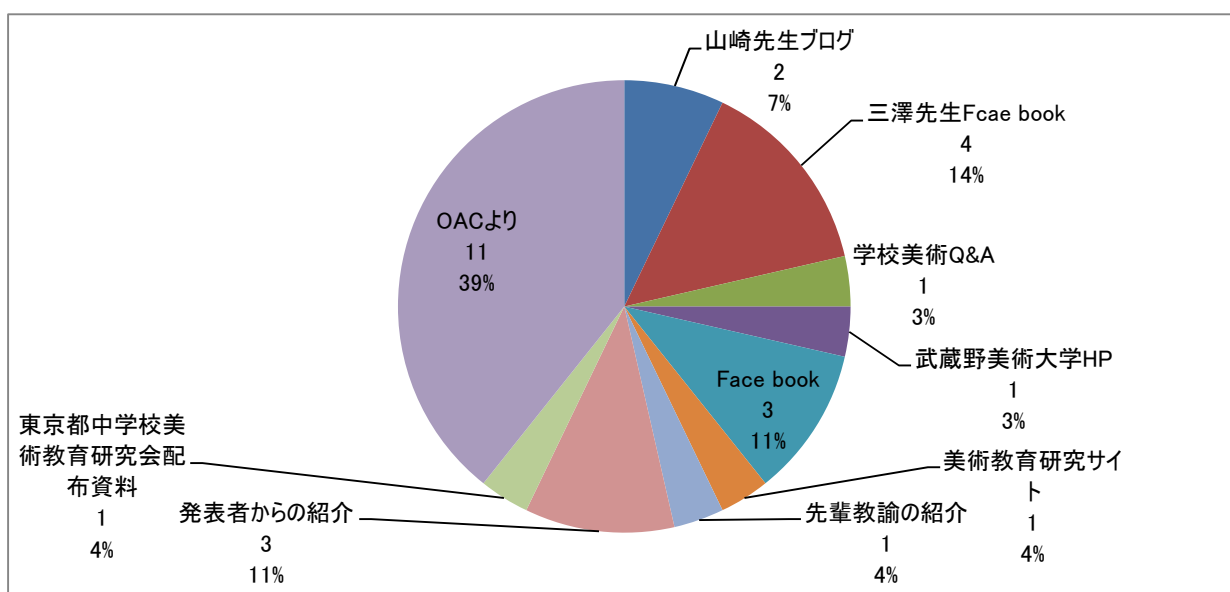
# クリエイティブの未来に向けて 教育の試みと課題アンケート

## 【学校・教育機関】

参加者数55

回答数29(回収率53%)

### 1. この会を知ったきっかけは？



\* Face book、Web サイトでの知った人が多いようです。

### 2. 開催時期について

全員がこの時期で適当であると回答。

### 3. この回に参加された理由

- 様々な現場の声を聞きたかった。「つながり」をつくりたかった(幼稚園)
- 普段関われない学校や企業の方のお話を伺い、自分の図工授業への糧となるものを得たくて(小学校)
- 自分の考えを深め、広めたかったから(小学校)
- 会の趣旨及び登壇者の方々に関心があったので(小学校)
- 今後の美術教育の在り方を考える際、企業との連携や他業種の方からの理解が不可欠であるため(小学校)
- 自分の分野外の状況や意見(考え)を聞きたかった(中学校)
- 美術教育の未来、今後の動向を知りたいため(中学校)

- 各界がつながってこの問題を考えることは必要であり重要。今までこのような機会が無かったので素晴らしい企画だと思い参加(高等学校)
- 自分も教育現場で様々な問題意識を持っているため(特別支援学校)
- 小中高の先生方の意見を聞きたかった(専門学校3名・大学2名)
- デザイン業界全体の将来性(専門学校)
- 現在の大学での教育に疑問を感じ参考にするため。(大学)
- 企業が参加するので「企業で今求められる人材」について聞きたかったため(大学)
- 芸術教育の現状を知るため、芸術教育の可能性を探るため(大学)
- デザイン人材育成に関わる問題に強い関心があるため(大学)
- 昨年度の中学校美術 Q&A in 東京に興味をもった(教育委員会)
- OAC 主催で教育と社会とのつながりについて直接話を聞ける機会だと思ったので

#### 4. 小学校の取組と課題 講演に関する意見・感想

(横浜市立明浜小学校・元横浜国立大学付属鎌倉小学校 高松智行氏)

- 「子ども主体のプロジェクトに大人が巻き込まれる覚悟があるか」この言葉がとても刺さりました。子ども主体であることがまず大前提であり、それをいかに面白がって共に遊び、そして学べるか、巻き込まれようと働きかけることを大人ができるか。すごく大事なことで改めて思いました(幼稚園)
- 今の閉鎖的な学校の中で図工の課題と存在意義、方向性と実践を伺えたのが勉強になりました  
(小学校)
- 精力的に色々な取り組みをしている方がいることを知り、話を伺えて楽しかった(中学校)
- 現状分析に共感。本質をついた素晴らしい取組だと思う。どの学校でもどの先生でも出来ると言う活動ではないが、その本質的な発想の仕方をそれぞれの場で展開することは可能ではないか。自分なりにどうするか考えてみたい(高等学校)
- 「学校」や「美術」の枠に捉われない実践にとっても驚きました。どのように実施できていったのかなど、細かいことについても非常に興味がわきました(特別支援学校)
- 美術館との連携教育について会話や意見交換でも作業が子どもたちを成長させていることが知れて良かった(専門学校)
- このような取り組みはとても良い活動だと思いましたが、実際の現場ではどのように評価されているのか知りたい。また我が道を行く生徒さんの話ももっと伺いたかった(大学)

- 子どもが大人を巻き込むような環境づくり。「私」を取り戻す過程。美術の可能性を感じました  
(大学)
- 素晴らしい取組だと感じました。小学校選択制の現在で、選んだ学校により子どもの可能性が左右されるのかもふと思った(大学)
- ご自身が実践された事例を具体的に話していただき、学校の現場を飛び出して行動されている事例がとても参考になった(大学)
- 「子ども主体のプロジェクトに大人が巻き込まれる覚悟があるか」問題は大人ですね(大学)
- 感銘した(大学)
- 美術館の役割の話に感動(大学)
- 素晴らしい取組に驚いた。同時に小学生からの受け身の姿勢が大学まで続いているのではないかと思えた(大学)
- 学校を飛び出した子どもはその後どうなったのか？なんとかナーレの誰もが表現を楽しんでいる部分とは異なったものを感じた(教育員会)
- 図工のみならず広く課題を捉えられていて感心しました(教育員会)

中学校の取組と課題 講演に関する意見・感想  
(北翔大学 准教授 山崎正明氏)

- 中学校美術の現状を詳しく話していただき、そこまで危機感があるのかと初めて知りました(小学校)
- 全ての話を聞きたかった。時間が押してしまい残念(中学校)
- 自分の所属する現場なのでよくわかります
- 中学校のみならず結果の判りづらい美術が蚊帳の外に置かれる現状について色々と考えさせられた  
(特別支援学校)
- 美術の時間と教員の減少に驚いた(専門学校)
- お話が途中になり残念。Web サイトやブログを是非拝読したいです。教科書についての分析をもっと聞きたかった(大学)
- 現場の実情(時間数・教員数)など知らなかったことが多く、勉強になった。体育の教員が美術を教えているのには驚きました(大学)
- 「中学校美術 Q&A」サイトは家で見えています。
- こんな熱心な先生方がいらっしゃるにも関わらず、学力向上一色に向かう日本の教育の実態に憤りを感じた(大学)
- 「助けてください！」と言うことが出来る先生のお気持ちやスタンスが素晴らしいです。
- 興味深い内容であり参考になった(大学)
- 厳しい環境下で一生懸命に努力、工夫されている姿に敬意を表すると同時に、美術教育の危機をヒシヒシと感じた(大学)

- 山崎先生のいつもの熱い思いを感じました。まだまだ頑張ってください(教育員会)
- 中学校教員の危機的状況について改めて考えさせられた(教育委員会)

高等学校の取組と課題 講演に関する意見・感想  
(東京都立総合芸術高等学校 校長 佐藤清親氏)

- 小学校～高等学校の12年間を見通して図工美術でつけられるチカラがあることを再認識できました  
(小学校)
- 高校の状況が今一つ判らなかったので、お話を伺えてとても良かった。中学で何を教え、伝え、送りだすかを考えさせられた(中学校)
- 高校も厳しい現状であることが理解できた(中学校)
- 芸術教育のトップにいる佐藤先生から「学校現場からの声だけではこの国は動かない」と言う言葉は非常に重く感じました(特別支援学校)
- 美術教育がなしてきてきたことについてのキーワードに納得し、大変参考になりました(大学)
- 日本は先進国にて稀にみる美術教育を重要視した国だとありましたが、国外の先進国の現状はどうか興味がわきました(大学)
- 中学校の課題と同様なものがあると感じた。芸術専門の高校に入学した生徒は思い切り芸術教育を受けられるが、他の一般高校生が進路を決める際に芸術系を選択する可能性が低いのではないかと、今の教育のカリキュラムを考えるとってしまった(専門学校)
- 高校の美術の状況がデータによって良く理解できた。質疑応答の最後には話された「裾野は広いほうが」と言うくだりが素晴らしかった(大学)
- 高校の教育課程の仕組みが理解できた、普通科の中には美術科の専任はおらず、総合学科やコース制などに講師が集中しているという話に心が痛んだ(大学)
- 専門高校としてわかりやすく課題を提示していただきました(教育委員会)

クリエイティブ系専門学校の取組と課題 講演に関する意見・感想  
(東洋美術学校 キャリア支援部 矢崎望氏)

- 専門学校から見た視点で小中高への要望に「手を動かす時間をつくってほしい」など、そのように見られているのだと判ったことは大きな収穫でした(小学校)
- データを交えながらの話は興味深かった(中学校)
- あえて(アナログな)「手を使って実際に試してみるような制作をしてほしい」と言う視点はとても大切な提言だと思いました(特別支援学校)
- 「あえてなぜ学校で学ぶか」と言うのは専門教育での大切なキーワードであり同感です(大学)
- 様々な意見を取りまとめられていて参考になりましたが、やはり現場で長年教えている方の実体験からのお話を聞きたかったです。発表者の生々しい意見でなかったのが残念です(大学)

- あえて学校に通う理由、学生は何を求めて入学するのか？それにどう応えていけばよいのか？考える切掛けになりました(大学)
- 大学でも同様な課題があり、今後の住み分けをどのようにしたらよいか考えてしまった(大学)
- 様々な専門学校を回って意見を集めたアプローチが素晴らしい(大学)
- 大学で感じている学生の質について全く同感。悩みは同じ(大学)
- 知らないデータを学びました(大学)
- 「手を使っての授業が大切」との視点に納得。専門学校や OAC のワークショップは高校のほうが有効ではという話があったが、義務教育期間の中学時代に社会とのつながりを大切にする授業が行なえたらと思えた(教育委員会)
- 専門学校の話の伺うことはほとんど無かったので新鮮だった(教育委員会)

#### 美術大学の取組と課題 講演に関する意見・感想

(武蔵野美術大学 教職課程 教授 三澤一実氏)

- 学生と言う立場と考え方を生かして学校を動かしていくことを私も学生時代にしたかった(小学校)
- 「旅するムサビ」の話を実際に聞くことが出来て楽しかった(中学校)
- 美術系大学受験者(専門学校含む)が多いのに、なぜ中学校のアンケート(ベネッセ)では中学校美術の人気の低いのか(中学校)
- 発達に即して、なぜ「旅するムサビ」をしているか、このプロジェクトの意義が判りました。学生と教師が対等の立場で行っているのが良いと感じました(特別支援学校)
- 対話すること(鑑賞授業)は学生にとって重要なことだと感じました(専門学校)
- 「旅するムサビ」など希望のある活動だと思いました。小中学校での現状を考えると、やはり「場」の提供が必要であり、説得力のある試みだと感じました(大学)
- 美術を通して対話していくこと、作品を他者に発表していくこと、またその方法や言葉の重要性を感じました。また大学が小中学校の美術教育に関わることの必要性を感じました(大学)
- 学生が自分の作品を子どもたちに見せることが両者にとって成長につながる。全ての取組がこれからの芸術教育を変える試みではないかと思えた(大学)
- ムサビは素晴らしい。学生の実践能力の高さに感動しました。三澤先生の指導力、また今回の質疑応答における幅の広さに感服しました(大学)
- 「旅するムサビ」大変面白い試みだと思います。小中学校の先生方には刺激になったのではないのでしょうか。次回は美大が一般的に抱える問題を伺いたいです。先生がいつもつくってくださる「場」・「会」には感謝しています(大学)
- 「旅するムサビ」素晴らしいと思います。まさに Win × Win です(大学)
- 「旅するムサビ」。学生 = 社会だからこそその面白さ、また学生の成長にもなっていますね  
(教育委員会)
- 「旅するムサビ」の狙いと効果が判りました。授業外というのがスゴイです(教育委員会)

制作業界の取組と課題 講演に関する意見・感想

(株)博報堂プロダクツ 企画制作事業本部 本部長補佐 鎌形治氏)

- クリエイティブな仕事で食べていけるのか、と言う部分のお話が伺えて子供から聞かれたときの参考になりました(小学校)
- 「クリエイティブな仕事でメシは食えるのか」・「基本デザイン力をつけさせてほしい」などの話も聞けて、良かった(中学校)
- クリエイティブと言う能力とはどんな能力を考えるのか。商品が売れる発想がクリエイティブなのか  
(中学校)
- 広告・デザイン業界について普段聞いているものとは大分異なる内容でした。満足度が高い仕事であると言うのはわかります。しかし、大きな企業はそうでも、中小規模の事業所のほうが多く、重労働、過酷なイメージを払拭できません。実態をさらに知りたいです(高等学校)
- 突然年収等具体的な話になって、教育業界と現実社会の温度差を感じた。どちらが良い悪いではなく、この温度差を教育業界は考えていかなければならない問題だと思った(特別支援学校)
- 企業側から小中高校、専門・大学に向けてもっとデザイン講座をやってほしい(専門学校)
- 教育界への要望をもっと聞きたかった。もっと本音の部分を知りたい(大学)
- 美術を職として生活できるという話をもう少し詳しく知りたかった(大学)
- 広告業界の人材育成の重要性が改めてわかった(大学)
- どうしたら「地頭の良い子」・「のびしろのある子」がつかれるのか、と言うそもそも論が面白かった(大学)
- 業界の求める人材資質が判り参考になった(大学)
- 「基本的なデザイン力」・「人間力」が大切とはっきり言っていただき自らの授業に参考にします(大学)
- クリボウ等、教育界へチカラを貸していただきたい(教育委員会)
- 広告業界と教育現場とのつながりも考える機会になりました(教育委員会)

企業の取組と課題 講演に関する意見・感想

(トヨタ自動車株式会社 デザイン本部 プロフェッショナルパートナー 菅原重昭氏)

- 基本的に業界の方と比べ教育界は考えが「ぬるい」のではと再認識(私の中では)しまして、はっきりと信念をもったその姿が一番感動しました(小学校)
- 普段知りえない内容の講演で大変興味深かった(中学校)
- 全ての教育が「人間力」に関わる(中学校)
- 納得・共感するお話でした。我々学校関係者の課題は、創造力を育てる授業をどう実現するかをきっちりと考え、教育課程や授業内容そして学校全体の授業(教科)連携を考えて実践することだと思います。しかし現実には日々に追われ・・・と言う状況です。始めること、つながることの重要性を再認識しました(高等学校)
- 時代を想定してからデザインを創るという視点が「ものづくり」においてスゴイと感じた(特別支援学校)

- 多様化するデザインには納得できましたが、実際にはどうすればそれに対応できる人材が育つのでしょうか。「3つのP」などの理想をどのように実現するのか聞きたかったです(大学)
- 人材育成の目的が明確だった。教育現場が積極的に企業と連携し子どもたちと社会をつなげることが急務であると感じた(大学)
- デザインフローやトヨタにおけるデザインの幅の広さが素晴らしかった。何より国全体の教育の問題に言及されるのが素晴らしいです(大学)
- 仕事の多様性が理解でき、人材育成も判りやすく参考になった(大学)
- 「トッププロ」の育成についてのお話が興味深かった。「パッション」をどのように引き出すか、教育現場の中で考えていくことが大切だと感じました(大学)
- 「感動を与えるデザインの共有」と言う考え方に共感しました。感動は子どもの頃からの経験に基づくものだと思います。それを育てていくことが教育の役目ではないかと感じました(教育委員会)
- 企業の人材育成についてよくわかりました。教育現場にも通じる部分がやはりあるなと思いました  
(教育委員会)

## 5. 講演全般について

- どの講演も自分の考えを広げていただけるもので、大変勉強になりました。皆さんがクリエイティブな話をされているのを聞き、エネルギーをたくさんいただきました(小学校)
- 小学校勤務ですので、後半に行くにしたがい問題点に変化していき普段考えないような内容の流れになり、とても興味深く貴重な話を伺えました(小学校)
- どの講演もそれぞれのお立場から、わかりやすく情報をご提供くださり勉強になりました(小学校)
- 学校現場と企業側と様々な立場からの人材育成についてのお話を伺うことができた貴重な時間でした(中学校)
- こんなに美術の危機感と可能性を共有する場だとは思っていませんでした(高等学校)
- 幅広く取り組みをされている先生方のお話が聞けてよかった。また企業側の考え方を伺えて参考になりました。生きる力やモノを考えていくうえで、根幹の力をつけていくことが出来る美術教育の大切さを広く知ってほしいと思った。特別支援学校に勤務していますが、地域で美術を愛する心を育てていく土壌づくりが重要であると思った(特別支援学校)
- 小中高、特に中・高校の美術教育の時間数、教員数などの状況を知り驚いた(専門学校)
- 先生方のご苦勞に心が痛くなりながら拝聴していました。業界からのお話も役立ちました(専門学校)
- 有意義だったのですが、「教育現場と制作現場をむすぶ」と言うテーマであれば、専門学校・大学と企業に絞った方が良いのでは思いました。専門学校・大学で就職に向けてどのような教育を組み立てているのかと言う話はなく、残念でした。現場で広告やプロダクトデザインを教えている教員の方に、実践されている事例を中心に話していただき、それを受けて企業の方に話をしてもらうのが良いのではないかと思います。またそれとは逆ですが、小中高の教育そのもや教職課程の話とは分けた方がよいのではないのでしょうか(大学)

## 6. 全体ディスカッションについて

- 関わること、交わること、寄り添うこと。大切ですね(幼稚園)
- 一つの視点だけではなく、質問に多面的に答えていただき良かった(小学校)
- 本気でものを伝え合う雰囲気が大変心地よく勉強になりました(小学校)
- 質問する方が、何を聞きたいのか判らないくらい質問が長い！聞いていて疲れました。司会の方も「質問は端的に」とか一言あっても良かったのでは(中学校)
- 様々な意見が聞いて改めて考えさせられました(中学校)
- 質問をしたいと思いつつ、いろんな意見に考えさせられました(中学校)
- 大変興味深く共感・納得の連続でした。次回は更にトピックを絞り込んで、更に充実したものになったらよいと思います。学校教育の現状には課題が山積みです。他業界の方に知っていただくことが大切だと思いますし、我々が業界について学ぶことも大切だと思いました(高等学校)
- 多くの問題点、それに対する解決方法等、とても勉強になりました(専門学校)
- 小中学校の先生方のご苦労は良く理解出来ました。今後はテーマを絞ったうえでのディスカッションを行ったほうが良いのではないかと感じました。企業の方々からの意見をもっと伺いたかったです(大学)
- 質問された中学の先生で、こうしたいけどなかなか受け入れられない、私は今後どうしたらよいでしょうかというものがありましたが切実な訴えだと思いました。パネリストの方も誠実に答えて頂き、良かったです(大学)
- 教育現場の方々为本当に「助け」を求めていることがよくわかりました(大学)
- 教育の捉え方、専門教育、社会教育、生涯教育、義務教育等々いろいろある中で、討論の内容が交錯する場面があったかと思えます。区別して議論すべきかと感じました(教育委員会)
- 企業の方の発言、質問はつい学校の立場になってしまう自分からは新鮮でした(教育委員会)

## 7. 感想・ご意見・要望等

- 答えのない美術の世界が改めて面白い！と思いました。ありがとうございます(幼稚園)
- 非常に楽しかった。次回はもっと企業の方からお話を伺いたいです。またグループ討論的なものもあると深く関わり合えると感じました。素敵な会だと思います。今後も参加したいです。本日はありがとうございました(小学校)
- 次回もぜひ参加させていただきます(中学校)
- 現場では新しいことを始めることに対して否定的な雰囲気があるように感じており、困っていたところです。このようにクリエイティブな方々が集まる中、自分もこれから積極的に取り組んでいきたいと感じました。たくさんのパワーをいただき、本当にありがとうございました(小学校)
- 何度か継続して行うことでより深い共通理解、ムーブメントとしてつながっていく可能性もあるかと思えます。ぜひ次回に開催に期待します。本日はありがとうございました(小学校)



- 時間に関しては終わりの時間を守って欲しいと思いました。その点を踏まえて今後に生かしていただきたいと思います。ありがとうございます(中学校)
- 自分のこれからの方向性など考える機会となった。参加して良かったと思う。答えはすぐに出せない、だからこそしっかり考えて実行に移していきたいと思った。美術教員が本気で動いて周りを巻き込む創造 & 表現活動が必要だと感じました(中学校)
- この会に美術館教育の方も含め、もう一度この会を設けてください(中学校)
- 「美術教育と言うより、地頭の良い、のびしろのある人材を企業は欲しい」と言う言葉は印象的でした。では、地頭の良さはどうやって育つのか？2001年朝日新聞で故 多田富雄東大名誉教授(免疫学)が「大学生の知力は明らかに低下した」と断じ、その原因として成長発達のうえで、芸術・哲学など幅広く関心を広げていくべき中・高校の時期に受験教科に偏った教育になっていると指摘しています。またその際多田氏は「知力すなわちセンス」と言い換えています。幅広い感性の教育が知力・学力の根底に必須のものとしてこの世界的な科学者は明言しています。  
学校教育が教科縦割りになっているのは本質的な教育にならないと思い美術教員を志しましたが、未だに学校は教科別の枠内で、なかなか連携が進みません。現在の教育問題の解決には学校教育を根底から構造的に考え直す必要があると考えています。今日は更にその思いを強くしました  
(高等学校)
- これからも年に何回か開催を希望します(専門学校)
- もっと時間が長くても良い。いろいろ質問してみたかった(専門学校)
- 美術やデザイン、また他教科との連携等、本当に難しい課題だと思います。ただ、今の学生達を見てみると「働く」ことの意識も薄いのが現実です。そういった点も今後取り上げてくださると参考になります  
(専門学校)
- 貴重な機会をありがとうございました。初回でもあり背景についてのお話が多かったですが、今後は具体的な取り組みについてもっと伺いたいです。また成功例だけでなく、失敗例や計画についても情報交換できる場になると良いと感じました。次回もぜひご案内いただきたいです(大学)
- この会で得た知識や見解を今後の活動に役立てたい(大学)
- 「美術・デザイン」には国を動かすチカラがあるように思えてなりません。本日の機会が教育をより良いものにしていく一歩になりますよう心より願っております。そして私自身がどう動くのか考えていきます  
(大学)
- 産業界と学校との間にてより深い議論や試みが話される場へと更に拡大することを望みます(大学)
- コンパクトに現代の美術教育の現状を知る機会となり感謝いたします(大学)
- 教員の参加をしっかりと促していきたい(大学)
- これから議論を続けることで、つながることは多いはず。貴重な会であるのでこれ一回にせず、続けていただきたい(教育委員会)
- 興味深い話が伺え、次回も楽しみです(教育委員会)